

助成年度：平成7年度

[所属] 大阪府立大学 工学部
[役職] 教授
[氏名] 細田 龍介 (他計8名)

[課題]

洲本市南部地域の環境特性の把握と大阪湾沿岸域の 環境管理システムの構築

[内容]

1. 本研究の目的

本研究は、洲本市南部地域の優れた環境に関して、海域、陸域、陸海、海と人間活動、集落の広い視点からの総合調査を実施し、この地域の環境特性を把握し、環境管理システムを検討するとともに、持続可能な発展を前提とした大阪湾沿岸域の海陸一体の環境管理システムを構築することが目的である。

2. 洲本市南部地域（由良地域）の環境特性

環境特性を総合的に把握するため、海域環境、陸域環境、海岸線、集落について実態調査を行った。その結果、洲本市南部地域の環境は以下のように評価することができる。

- ①総合的には望ましい状態に保たれた環境とすることができる。
- ②由良湾内外は良好な海域環境とすることができるが、場所によっては悪化の兆しも見られるので保全の努力を必要とする。
- ③諭鶴羽山系の照葉樹自然林、生石 - 熊田海岸の藻場およびこの地域における陸 - 海の連続性は、良好な自然環境のモデル地区として保全しなければならない。
- ④自然との共生を基本として築かれた集落・人間活動の歴史の価値は極めて高い。
- ⑤主要漁業種の生態面から重要な位置を占め、漁場環境も良く保全されている。

3. 大阪湾沿岸域のモデルとしての洲本市南部地域の環境管理システム

洲本市南部地域においては、次の方向で環境管理システムの構築を行う必要がある。

- ①かつての生活に根ざして存在していた環境を維持・更新するメカニズムを再評価しつつ、生活面や経済面における循環型社会システムを整備する。
- ②海陸一体の総合的な環境管理により、人間活動やそれが展開される様々な空間において自然との共生を図る。
- ③環境教育・学習を進め、自然環境のモニタリングを継続し、地域社会の各セクターの参加による環境の維持・更新・利活用を促進する。
- ④大阪湾岸地域や大学等研究・教育機関との連携・交流により、地域的・広域的環境問題の解決を図るとともに、環境の総合的機能を活用した地域発展を図る。

4. 大阪湾沿岸域の海陸一体の環境管理システムへの提言

大阪湾沿岸域においては、生活のあり方を見直すとともに、沿岸海域の特性や生物の視点に十二分に配慮し、海陸一体の環境管理システムを構築しなければならない。

大阪湾沿岸域の環境管理システムは、①環境は後の世代から預託されたものであり、共にあることを認識

し、また②大阪湾が私達の存立基盤であることに留意し、③生物の多様性の維持・回復を目標に、④水系や陸海の連続性に配慮しつつ、⑤世界にモデルを提供することを理念として構築していく必要がある。

そして、大阪湾沿岸域は、大阪湾の環境保全・創造を産学官および市民が協力して実施するとともに、①海からの視点を含めた都市づくり、②沿岸海域の新たな活用と環境創造、③持続可能な社会の構築を行い、21世紀地球社会のモデルとなる環境首都：大阪湾沿岸域へと発展していかなければならない。

5. 今後の研究の展開に向けて

今後は、大阪湾沿岸域の海陸一体の環境管理システム構築への具体的な展開のために、環境要因の量的評価、データベース化、システム的アプローチ等モデルの精緻化・普遍化を推進していく予定である。